

Chrome Enterprise

スタートガイド

目次

Chrome Enterprise をご利用いただきありがとうございます。熟練した Google 管理者様は、目的のセクションまでお進みください。初めて利用される場合は、ワークスタイルを変革する方法をぜひご覧ください。このガイドでは、Chrome Enterprise の利用方法について説明します。

目次	2	管理	14
はじめに	3	アカウントと Chrome OS ポリシーの設定	14
導入: 方法とベスト プラクティス	4	組織部門とポリシーの定義	14
導入方法のチェックリスト	4	ポリシーに関する重要な留意事項	15
導入プロジェクトのキックオフ	5	おすすめの設定	16
ユーザー側の変革の開始	5	Chrome の導入とチェンジ マネジメント	18
接続性	6	Chrome 導入のワークストリーム	19
ネットワーク プロファイルを管理する	6	変革全体でのユーザーのサポート	20
Wi-Fi を設定する	7	ガバナンス	20
デバイスごとに Wi-Fi 設定を追加する	7	準備	22
Wi-Fi のセットアップ	8	コミュニケーション	24
802.1x の導入	8	トレーニング	25
ウェブ フィルタリング	8	「Chrome への移行」のサポート	30
デバイスの設定と登録	9	サポートが必要な場合	31
Chrome Enterprise 登録の手順	9		
前提条件	10		
登録	11		
企業登録されたデバイスの確認	13		
準備サービス	13		

はじめに

Chrome Enterprise スタートガイドをご覧くださいありがとうございます。Chrome Enterprise デバイス、または Chrome デバイスと Chrome Enterprise Upgrade を購入された方もいれば、購入を検討されている方もいらっしゃるでしょう。

まずはいくつかの定義をご説明します。

Chrome デバイス (Chromebook、Chromebase、Chromebox) は、Chrome OS (Google がクラウド向けに設計したオペレーティング システム) を搭載したコンピュータ デバイスです。Chrome デバイスには、純粋なウェブ環境で動作するという独特な特徴があります。自動的に更新されるため、定期的にパッチをインストールしたりマシンのイメージを再作成したりする必要はありません。起動がすばやく、さまざまなセキュリティ機能も組み込まれています。

Chrome Enterprise Upgrade は Chrome Enterprise デバイスに付属していますが、どの Chrome デバイスでもご購入いただけます。Chrome Enterprise Upgrade を利用すると、IT 担当者は Chrome OS に組み込まれているビジネス向け機能を使って、クラウドワーカーのセキュリティとオーケストレーションを実現し、利便性を高めることができます。アップグレードでは、高度なセキュリティで企業データが保護され、ユースケースに関係なくリソースに柔軟にアクセスでき、Chrome デバイスやその他の重要なインフラストラクチャのオーケストレーションが容易になります。

Chrome Enterprise デバイス (Chromebook Enterprise、Chromebase Enterprise、Chromebox Enterprise) は、Chromebook がエンドユーザーにもたらすメリットに加え、IT 担当者が安全にクラウドワーカーの利便性を高められる Chrome Enterprise Upgrade および Chrome OS のビジネス向け機能を備えています。Chrome Enterprise は、Chrome デバイス、Chrome ブラウザ、Chrome OS のビジネス向けソリューションです。クラウドネイティブのツール、サードパーティ プロダクトとの機能連携、IT 管理者向けの 24 時間 365 日対応のサポートが提供されます。

Chrome Enterprise デバイスは、[Google 管理コンソール](#)で一元管理できます。企業や教育機関の IT 管理者は、さまざまなデバイスで Chrome ユーザー向けのエンタープライズ機能を管理できます。Google 管理コンソールを使用して、ポリシーの適用、ユーザー向けの Chrome 機能の設定、組織内の VPN や Wi-Fi ネットワークへのアクセス権の付与、Chrome アプリや拡張機能の自動インストールなどが可能です。Chrome Enterprise を利用すると、IT 担当者はクラウドワーカーがどこでも安全かつ効率的に作業できるように利便性を高めることができます。

このガイドでは、Chrome Enterprise の購入、アカウントの設定、デバイスの登録、さまざまな情報 (Chrome Enterprise の導入手段、ポリシーの設定、チェンジ マネジメント、ユーザー側のチェンジ マネジメント、ベスト プラクティス、および各段階での想定事項) の共有について詳しい手順を説明します。

注:教育機関や企業に Chrome デバイスを導入する際の推奨事項として挙げている内容は、Google がさまざまなお客様やパートナー様と現場でやり取りする中で蓄積されたものです。体験談やご意見をお寄せくださった皆様に感謝申し上げます。

ご不明点がある場合

[Google のサポートページ](#)をご覧ください。か、ask-chrome-channel@google.comまでご連絡ください。

一般的な質問については、[Chrome Enterprise ヘルプセンター](#)をご覧ください。

導入: 方法とベスト プラクティス

最良のパフォーマンスと普及を実現するには、デバイスの登録と導入を始める前に方法と設定が適切であることを確認してください。

導入方法のチェックリスト

ここでは、お客様と Google 内部チームがデバイスの導入準備で使用しているチェックリストをご紹介します。チェックリストを使用する前に、各項目でデューデリジェンスを行ってください。以下では、「導入プロジェクトのキックオフ」と「インフラストラクチャの設定」について説明します。「組織部門とポリシーの定義」については「[管理](#)」、「[準備サービス](#)」については「[デバイスの設定と登録](#)」をご覧ください。

導入プロジェクトのキックオフ

- 導入チームを定義する
- 導入の詳細な計画
- 開発プロジェクト計画

インフラストラクチャの設定

- ネットワーク接続
- 帯域幅容量を確認する
- 印刷ソリューション

組織部門とポリシーの定義

- コンソール管理
- 定義された管理者ロール
- 組織部門階層
- デバイス ポリシー
- ユーザー ポリシー

準備サービス

- Chrome を最新ビルドに更新する
- 会社のドメインにデバイスを登録する
- 発送の準備をする
- デバイス設定をテストおよび検証する
- ハードウェアの設定を確認する
- デバイス上のポリシー
- エンドユーザー用のポリシー
- 導入チェックリストを作成する

導入プロジェクトのキックオフ

新しいワークフローの導入は1日で実現できるものではありません。段階的なプロセスで、コミュニケーション、トレーニング、エンゲージメントを構成する基本的なコンポーネントを調整し、従業員がワークスタイルや業務プロセスに Chrome を統合できるようサポートします。優れた Chrome 導入計画には、Chrome 普及のすべての段階にチェンジ マネジメントが取り入れられています。

ユーザー側の変革の開始

あらゆる組織で変革プロジェクトの中核となるのは人です。Chromebook 導入でのユーザーを管理する体系的な方法を構築することが最も重要になります。

主な決定事項

1. 社内の誰がこの導入の成功に責任を持つのか。
2. 対象となるユーザーは誰で、どのように Chrome デバイスを使用するか。
3. Chrome デバイスへの移行によって仕事にどのような影響があるか。
4. Chrome をメインのデバイスまたはブラウザにするのか。
5. 導入の成功をどのように評価するか（例: 30 日以内に 50% のユーザーが導入）。
6. Chrome デバイスへの移行をユーザーにどのように伝えるか。
7. ユーザーに Chrome デバイスの使い方をどのようにトレーニングするか。

効果的なチェンジ マネジメント計画の必須事項

- Chromebook の使用によって作業効率が向上する理由をユーザーが理解する
- ユーザーに応じてカスタマイズしたコミュニケーションによって、必要な質問に答える
- Chromebook を使用できるようにユーザーがトレーニングを受けて準備する
- Chromebook を採用するかどうかはユーザーが個々に決断する
- ユーザーおよび IT 管理者向けのエンゲージメントとサポートを継続する

これらの質問に対する答えをを文書化して、以下の「[Chrome 導入とチェンジ マネジメント](#)」の指示を実施すると、組織内に Chrome Enterprise を迅速に普及させることができます。

接続性

組織でワイヤレス接続を設定する際には、建物のどこからでも安定した接続が可能であることと、すべてのデバイスでオンライン作業を行えるだけのインターネット帯域幅があることを確認してください。

主な特徴

Chrome デバイスでは、一般的な Wi-Fi プロトコル（WEP、WPA、WPA2、EAP-TLS、EAP-TTLS、EAP-PEAP、LEAP）がすべてサポートされています。さらに、一部の Chrome デバイスには 3G または 4G のモバイルインターネット アクセス用のハードウェアが搭載されています。これらのハードウェアは、モバイルデータ プランを利用して、モバイル通信圏内にいれば動作します。

評価と導入のヒント

組織のネットワーク インフラストラクチャを正しく評価して準備することは、ユーザーに最適な環境を提供するために欠かせない重要な作業です。特に、会社や学校のように多くのユーザーによって多数の Chrome デバイスが同時に使用される環境では、IT 管理者が十分な接続性と帯域幅を確保する必要があります。

- **Wi-Fi の受信範囲と密度をテストし、追加のアクセス ポイントが必要かどうかを評価します。** このテストでは、Android デバイス上でサードパーティ製アプリの [Wifi Analyzer](#) を使用することができます。
- **すべての建物のワイヤレス インフラストラクチャと接続形態を調べます。** これにより、学校全体または会社全体に導入する前に、ワイヤレス接続をどこからでも問題なく行えることを確認します。通常は、ワイヤレス接続を専門に扱うパートナーに以下を依頼することをおすすめします。
 - **現地の調査** - まず、既存の Wi-Fi ネットワークと、周辺のデバイスや他の Wi-Fi ネットワークからの干渉を分析する必要があります。
 - **導入** - 適切なセキュリティ機構があり、チャンネル選択が可能で、送受信（Rx/Tx）に対応しているアクセス ポイントを導入または再配置します。
- **Chrome デバイスから必要な URL にアクセスできることを確認します。** Chrome デバイスが正しく動作し、ポリシーとセキュリティの更新を受信するには、Google のネットワークにアクセスする必要があります。お客様の環境でインターネットへのアクセスを制限している場合でも、導入したデバイスがプロキシや SSL インспекションの認証を行うことなく Google 固有の [URL](#) にアクセスできるようにする必要があります。

詳しくは、[Chrome デバイス向けの企業ネットワーク](#) をご覧ください。

ネットワーク プロファイルを管理する

Wi-Fi ネットワークはいつでも手動で Chrome デバイスに追加できますが、[管理コンソールを使用して Wi-Fi プロファイルを適用する](#) ことをおすすめします。これらのプロファイルは、登録処理の際に Chrome デバイスにダウンロードされて適用されます。また、Wi-Fi ネットワーク プロファイルの更新は、Chrome デバイスでのポリシーの自動更新時に適用されます。管理コンソールを使用してこれらの設定を適用するメリットは、事前共有キー（PSK）の強度が十分になり、エンドユーザーと共有する必要がないという点です。

Wi-Fi を設定する

Chrome デバイスを利用するお客様の多くは、設定が簡単な WPA2-PSK を使用しています。一方で、Chrome デバイスは教育機関や企業のさまざまな環境で利用できます。たとえば、クライアント証明書や SSO を必要としたり、ウェブフィルタリングが導入されていたりする複雑な Wi-Fi 環境でも利用できます。以下では、Wi-Fi の設定や任意のネットワーク設定を行うためのヒントを紹介します。

デバイスごとに Wi-Fi 設定を追加する

ユーザーや Chrome デバイスのグループごとに異なる設定を適用するには、それぞれを最上位（親）組織の下位にある専用の組織部門に配置し、その組織部門にのみ設定を適用します。組織部門について詳しくは、以下の「管理」をご覧ください。

子組織部門は親組織から Wi-Fi ネットワーク プロファイルを継承します。ただし、カスタマイズする組織部門を選択して、手動で継承を解除した場合を除きます。

- [組織構造の仕組み](#)、[Chrome ポリシー管理](#)、別の組織部門に [Chrome デバイスを移動する手順](#)を確認してください。

プロファイルを設定するには、SSID やセキュリティ タイプなどのネットワーク情報を提供する必要があります。サービスセット識別子（SSID）とパスフレーズでは大文字と小文字が区別される点に注意してください。新しい Wi-Fi ネットワーク プロファイルを定義する際に、【この Wi-Fi ネットワークへのアクセスをプラットフォームごとに制限する】の [自動的に接続する] ボックスと [Chromebook] ボックスをオンにします。ネットワークの設定に関する技術的な詳細情報については、[こちら](#)をご覧ください。

Device management > Networks > Wi-Fi

ORGANIZATIONS SETTINGS for Chrome Enterprise Love

▼ Chrome Enterprise Love

- ▶ Customer Training
- ▶ Deprovisioned Devices
- Device Enrollment
- Test
- ▶ Trusted Testers

Add Wi-Fi network

Name Help

Service set identifier (SSID)

This SSID is not broadcast
 Automatically connect

Security type

None ▼

Proxy settings

Direct Internet C ▼

Restrict access to this Wi-Fi network by platform

This Wi-Fi network will be available to users using:

Mobile devices
 Chromebooks
 Google meeting room hardware

Apply network

by user ▼

Users in this Organizational Unit will automatically get access to this network when signed in.

ADD CANCEL

Wi-Fi のセットアップ

一般的には、オープンなネットワークやフィルタリングされていないネットワークを使って Chrome デバイスを登録し、管理ポリシーの初回の同期を行うと簡単に Wi-Fi のセットアップを行えます。このセットアップにより、IT 管理者が定義したネットワーク プロファイルを Chrome デバイスで受信できるようになります。デバイスを設定したら、この一時的な登録ネットワークを優先ネットワークをリストから削除します。詳しくは、[ネットワークの情報を削除する](#)をご覧ください。

802.1x の導入

Chrome デバイスは 802.1x 認証をサポートしています。[クライアント証明書を使用して Chrome デバイス](#)を設定する方法については、ネットワーク ベンダーにお問い合わせください。たとえば、Aruba Networks が提供する [ClearPass Onboard](#) という拡張機能を使うと、Chrome デバイスの接続を準備して証明書を安全な方法でインストールできます。

[Google Cloud Connect](#) には、Google Cloud のシステム管理者とパートナー向けの高度な 802.1x エンタープライズ Wi-Fi ネットワーク設定に関するドキュメントが用意されています。

このトピックについて詳しくは、[Chrome デバイスのクライアント証明書を管理する](#)をご覧ください。

ウェブ フィルタリング

組織でネットワーク フィルタリング デバイスを使用してセキュア ソケット レイヤ (SSL) インスペクションを実行している場合、通常は `chrome://settings/Certificates` の [認証局] タブにカスタムのルート証明書を追加する必要があります。ユーザーが送信するウェブ リクエストのほとんどにはこの方法で対応できますが、一部のシステムレベルのリクエストではこの証明書が使用されないため、あらゆるセキュリティリスクからユーザーを保護できるわけではありません。SSL インスペクションから除外する必要があるホストについては、[こちらのリスト](#)をご覧ください。

SSL インスペクションが有効なネットワークで Chrome デバイスを使用するには、[ネットワークに SSL コンテンツ フィルタを設定する方法](#)をご覧ください。組織で登録済みの Chromebook にログインするすべてのドメインユーザーに対してカスタムのルート証明書をインストールする方法が記載されています。

デバイスの設定と登録

導入するデバイスの数が少ない場合は、[Chrome デバイスのクイックスタートガイド](#)をご覧ください。Chrome Enterprise デバイスを大規模なグループに導入したり、[デバイスを一括登録](#)したりする場合（複数の事業所など）は、以下の手順をご覧ください。

Chrome Enterprise 登録の手順

Chrome Enterprise デバイスをお持ちでない場合

[Chrome Enterprise Upgrade](#) を購入するか、[Google 管理](#) コンソールで管理する Chrome Enterprise デバイスを用意する必要があります。教育機関向けまたは企業向けのアップグレードを購入できます。また、地域によってはオンラインで [Chrome Enterprise Upgrade](#) を購入することも可能です。

- [Google 管理コンソール](#) で、[保有するアップグレードの数](#)、[アップグレードの管理方法](#) および [年間アップグレードの更新方法](#) を確認します。
- 詳細については Google Chrome デバイスの販売パートナーにお問い合わせください。パートナーを利用していない場合は、[お住まいの地域の Google Cloud パートナー](#) を検索できます。

新規のお客様:

Chrome Enterprise Upgrade

1. Chrome Enterprise Upgrade を購入します
2. [販売パートナー](#) が Google を通じて管理コンソール アカウントの注文を処理します
3. 管理コンソールにログインすると、Google からウェルカム レターが届きます
4. ウェルカム レターの受信後 12 日以内に、[ドメインの所有権を証明する](#) 必要があります
5. Chrome デバイスを企業ログインで [登録](#) します

Chromebook Enterprise

1. Chromebook Enterprise デバイスを購入します
2. g.co/ChromeEnterpriseAccount にアクセスして、ドメインまたは管理コンソールのアカウントを作成する必要があります
3. 管理コンソールにログインして設定を行います
4. [ドメインの所有権を証明する](#) 必要があります
5. Chrome Enterprise デバイスを企業ログインで [登録](#) します

企業向けサービス（G Suite など）の既存のお客様

Chrome Enterprise Upgrade

1. Chrome Enterprise Upgrade を購入します
2. [販売パートナー](#)が注文を通してお客様の企業アカウントの詳細情報を Google に送信します
3. 管理コンソールにログインすると、Google からウェルカム レターが届きます
4. Chrome デバイスを企業ログインで[登録](#)します

アップグレードの総数は、Google 管理コンソールの2つの場所で確認できます。

- [お支払い]: Chrome、Android、および G Suite のサブスクリプションが表示されます
- [デバイス管理] > [Chrome] > [デバイス] に移動し、クレジットカードアイコンをクリックしてアップグレードの総数を表示します

Chromebook Enterprise

1. Chromebook Enterprise デバイスを購入します
2. Chrome Enterprise デバイスを企業ログインで[登録](#)します

ドメインの所有権の証明、Google 管理コンソール、企業登録などのトピックに関する詳しい手順については、「[Chrome Enterprise "How To" Demo Videos](#)」の再生リストからご確認ください。

前提条件

複数の Chrome Enterprise デバイスを導入して一元管理するには、以下の準備が必要です。

IT 管理者

1. Google 管理コンソールへのアクセス権

Chrome Enterprise のユーザー ポリシーとデバイス ポリシーを設定し、デバイスの企業登録を有効にする必要があります。[こちら](#)にログインしてください。

- Google 管理コンソールの[特権管理者権限](#)を持っていない場合は、アカウントを作成するか、特権管理者から権限の委任を受ける必要があります。
 - 組織の特権管理者に連絡して Google 管理コンソールへのアクセス権を取得します。特権管理者は、Chrome Enterprise 管理と Google サポートへのアクセスのロールおよび権限をユーザー アカウントに割り当てる必要があります。

2. プライマリ ドメインの管理者権限

[Google 管理コンソール](#)で Chrome デバイス管理ポリシーを有効化して、[Google Cloud サポートセンター](#)にアクセスできるようにするには、Google にドメイン所有権を申請する必要があります。それには、プライマリ ドメインの管理者権限が必要になります。

- 管理者を確認する方法については、[こちら](#)をご覧ください。
- ドメインの所有権を証明する方法については、[こちらの動画](#)をご覧ください。

3. 電話サポート、ヘルプ アシスタント、Google Cloud サポート センターへのアクセス権

特権管理者は、アカウント復元とサポート チケット ログイン用の[チケットを管理できるサポート アクセス権をドメイン ユーザーに委任](#)できます。特権管理者はサポート ポータルの「[ユーザー管理](#)」で委任ユーザーを追加する必要があります。サポート ポータルへのアクセス権がユーザーに付与されていることを確かめるには、[こちら](#)でログインアクセスを確認します。「未承認」エラーが表示される場合は、[こちらのフォーム](#)を使用してサポートにチケットを送信してください。

エンドユーザー

管理対象の Chrome Enterprise デバイスを使用する際に Google ID (G Suite アカウント) は不要ですが、ユーザーが [Google サービス](#)にアクセスできるように Google アカウントを準備しておくことをおすすめします。詳しくは、[ドメインにユーザーを追加する](#)方法をご覧ください。

前述のとおり、[Google 管理](#)コンソールで管理するデバイスごとに [Chrome Enterprise Upgrade を購入する](#)必要があります。

多数の Chrome Enterprise デバイスの導入、または G Suite との同時導入

多数の Chrome Enterprise デバイスを導入する場合や、G Suite と一緒に初めて導入を行う場合は、[Google Cloud パートナーを利用することをおすすめします](#)。

登録

Chrome Enterprise デバイスをエンドユーザーに配布する前に、ユーザーが快適に使用できるようにデバイスの準備を行う必要があります。最低限の準備として、Chrome デバイスをドメインに登録し、管理できるようにしておきます。これにより、今後のデバイス ポリシーの更新が一連の Chrome Enterprise デバイ스에適用されるようになります。

Chrome デバイスを最新バージョンに更新する

Chrome OS 搭載デバイスは、Wi-Fi またはイーサネットに接続すると自動的に更新を確認してダウンロードします。管理者が[デバイスの更新設定](#)で制限していない限り、デバイスは最新バージョンに更新されます。多数のデバイスを更新する必要があり、ネットワークの帯域幅を節約したい場合は、USB リカバリ メディアを使ってデバイスを最新バージョンの Chrome OS に更新することもできます。

数百台から数千台の Chrome Enterprise デバイスのイメージを作成する場合は、USB ドライブを使用した更新が最も効果的かつ効率的です。OS のフル アップデートではデバイスあたり 400 MB を超える容量が使用されることがありますが、USB ドライブで更新を行えば、使用する帯域幅を抑えることができます。

- [\[デバイス管理\]](#) > [\[Chrome\]](#) > [\[デバイスの設定\]](#) > [\[デバイスの更新設定\]](#) に移動します。

Chrome OS イメージを作成する

USB ドライブを使用して Chrome デバイスを最新バージョンの Chrome OS に手動で更新する場合は、以下が必要です。

1. 更新対象の Chrome デバイスのメーカーとモデルに関する情報
2. 4 GB 以上の容量を備えた、USB 2.0 以降のフラッシュドライブ
3. Chrome OS、Microsoft Windows、または macOS で稼働する Chrome ブラウザ
4. [Chromebook リカバリ ユーティリティ](#) をインストールし、デバイスのメーカーとモデルを正しく指定して USB 復元ディスクを作成すること

デバイスの更新、復元、ワイプについては、[こちら](#)をご覧ください。

注:Stable 版のリリースがイメージ書き込みツールで利用できるようになるまで、1 週間ほどかかる場合があります。

デバイスを企業登録する手順

デバイスを企業登録するには（詳しい手順については[こちらの動画](#)を参照）：

1. [USB リカバリ デバイスを作成](#)するか、無線でデバイスを更新します。10 台を超えるデバイスを導入する場合は、USB の使用をおすすめします。
2. 再起動後、使用言語、キーボードの種類、Wi-Fi ネットワークを選択します。
3. 利用規約に同意します。
4. Chrome デバイスにログインする前に、**Ctrl+Alt+E** キーを押して [企業の登録] ダイアログ ウィンドウを表示します。または、ログイン時に [その他のオプション] をクリックして [企業の登録] を選択します。

デバイスの企業登録を求めるメッセージが自動的に表示される

最新の更新がプリインストールされた Chromebook Enterprise デバイスでは、エンドユーザー使用許諾契約に同意した後、ログインの前に Chrome Enterprise アカウントでデバイスを登録するように求めるメッセージが自動的に表示されます。このメッセージが表示されない場合は、Ctrl+Alt+E キーを押して登録できます。

5. ユーザー名とパスワード（ドメインの管理者または登録ユーザー）を入力し、**[デバイスを登録]** をクリックします。
デバイスが正しく登録されると、[このデバイスは組織の管理対象として登録されました] というメッセージが表示されます。
6. [完了] をクリックして最初のログインページに戻ります。ページ下部に [このデバイスは [ドメイン名].com によって管理されています] というメッセージが表示されます。

組織のすべての Chrome デバイスに対してこの手順を繰り返します。デバイスの登録方法について詳しくは、[Chrome デバイスの登録](#)をご覧ください。

重要: デバイスの企業登録を忘れると、デバイスのワイプと登録のやり直しが必要になります。詳しくは、[Chrome デバイスのデータをワイプする](#)手順をご覧ください。

企業登録されたデバイスの確認

[管理コンソール](#)のデバイスリストでは、登録済みの Chrome デバイスの検索と表示、デバイスに関する情報（シリアル番号、登録ユーザー名およびステータス、アセット ID、ポリシーの同期データ、サポート終了日、場所などを手動入力したメモ）の確認が可能です。シリアル番号をクリックして各デバイスの詳細情報（デバイスにインストールされている OS のバージョン、MAC アドレス、最終ログインユーザーなど）を表示することもできます。これらのデバイス ポリシーは、ドメインに管理対象として登録されているすべての Chrome デバイ스에適用されます。

- [\[Chrome 管理\]>\[デバイス\]](#) でデバイスのリストにアクセスします
- リストの右上にある歯車アイコンをクリックして、表示できる列を管理します
 - [\[新しい列を追加\]](#) をクリックして Chrome のバージョンとモデルを追加します
- デバイスをクリックして次の操作を行います
 - デバイスを移動、無効化、[デプロビジョニングする](#)
 - ハードウェアと OS の情報、カスタム フィールド、システム アクティビティ、およびトラブルシューティング用のデータ（音量、メモリ使用量、CPU 使用率、ディスク容量、Wi-Fi の信号強度など）を表示する

企業登録が完了すると、管理者は以下の操作を行えるようになります。

- [Chrome デバイスのデータをワイプする](#)
- [ワイプされた Chrome デバイスを自動的に再登録する](#)
- [Chrome デバイスを用途変更または廃棄する](#)

準備サービス（任意）

準備サービスを利用すると、Chrome デバイスを「ゼロ IT タッチ」で導入できます。販売パートナーに準備サービスを依頼すると、Chromebook がすぐに使用できる状態で納品されるため便利です。ユーザーは Chrome デバイスを箱から出したら、設定を行わなくても作業を開始できます。通常のエンドユーザー向けのパソコンと同様に、管理コンソールで Chrome デバイスを適切な管理ポリシーに関連付けるための設定作業は必要です。Google Chrome デバイスの正規販売パートナーの多くが、デバイスの出荷前にこのサービスを提供しています。

出荷前に Chromebook 準備サービスを行う販売パートナーなどの組織には、お客様の G Suite ドメインの管理者以外のユーザー アカウントを提供できます。この登録用のアカウントは、すべてのサービスを無効にしている組織部門で利用することもできます。

準備サービスで行われる実際の作業は以下のとおりです。

- Chrome OS バージョンの更新
- Chrome OS 管理への登録
- ポリシーの検証（事前設定された Wi-Fi ネットワークなど）
- アセットのタグ付け
- レーザー刻印
- 周辺機器の同梱

詳しくは、担当の Google Chrome デバイス販売パートナーに問い合わせるか、[お住まいの地域の Google Cloud パートナー](#)を検索してお問い合わせください。

管理

企業や教育機関の IT 管理者は、Chromebook などの Chrome デバイスを、クラウドベースの管理コンソールから管理できます。Google 管理コンソールを使用して、[Wi-Fi の設定](#)、[プリインストールするアプリ](#)の選択、最新バージョンの Chrome OS への[自動更新](#)など、[200 を超えるポリシー設定](#)を行えます。

Google 管理コンソールで可能な操作については、[こちらの動画](#)をご覧ください

参照: [サブスクリプションオプション](#) | [アップグレードの購入](#)

アカウントと Chrome OS ポリシーの設定

Google 管理コンソールを使用すると、複数の Chrome Enterprise デバイスを 1 か所でまとめて管理できます。Google 管理コンソールを使用してユーザーを管理する場合は、管理コンソールの [Chrome 管理] で組織部門ごとにデバイス ポリシーとユーザー ポリシーを設定します。

管理コンソールのデバイスリストでは、Chrome Enterprise デバイスの一覧表示、デバイスの検索、デバイスに関する情報（シリアル番号、登録ステータス、サポート終了日、登録ユーザー名、場所などを手動入力したメモ）の表示が可能です。シリアル番号をクリックして各デバイスの詳細情報（デバイスにインストールされている OS のバージョン、MAC アドレス、最終ログインユーザー）を表示することもできます。

これらのデバイス ポリシーは、ドメインに管理対象として登録されているすべての Chrome Enterprise デバイ스에適用されます。ユーザー ポリシーは、デバイスの登録の有無にかかわらず、ユーザーがログインするあらゆるデバイスで適用されます。これらの設定では、セキュリティ ポリシーの設定や、ユーザーによるダウンロードとアクセスを許可するアプリの管理を行うことができます。詳しくは、[Chrome デバイスの管理](#)をご覧ください。

Chrome OS ポリシーに加えて Chrome ブラウザ クラウド管理を使用すると、ログイン ユーザー向けのブラウザ ポリシーを管理できます。[ブラウザを登録](#)し、管理対象デバイスで Chrome を開いたすべてのユーザーに 100 以上のポリシーを適用する方法をご確認ください。

組織部門とポリシーの定義

[Google 管理コンソール](#)でユーザーを管理する場合、管理コンソールの [[Chrome 管理](#)] で組織部門ごとにデバイス ポリシーとユーザー ポリシーを設定できます。

- [デバイス] > [Chrome 管理] にアクセスします

サービスへのアクセスや設定をユーザーまたはデバイス別にカスタマイズする場合は、組織構造を定義します。[ユーザーとデバイスのポリシーについての記事](#)をご覧ください。

管理コンソールでは、ユーザーが管理対象デバイスを使用する際に適用する [100 以上のポリシー](#)と設定を指定できます。Wi-Fi やプロキシを設定する、アプリや拡張機能をプリインストールする、アクセスを承認済みユーザーに制限するなど、さまざまな設定が可能です。教師と生徒、正社員と派遣社員など、ユーザーグループ別に異なる設定を適用できます。

Chrome Enterprise 管理者は、ユーザーが管理対象の Chrome デバイス（Chromebook など）を使用する際に適用する設定を管理できます。[デバイスを使用するすべてのユーザーに、デバイスレベルの設定が適用されます](#)。ゲストとしてログインしているユーザーや、個人の Gmail アカウントでログインしているユーザーも対象です。

ユーザー ポリシーは、デバイスの登録の有無にかかわらず、ユーザーがログインするあらゆるデバイスで適用されます。これらの設定では、セキュリティ ポリシーの設定や、ユーザーによるダウンロードとアクセスを許可するアプリの管理を行うことができます。詳しくは、[Chrome デバイスの管理](#)をご覧ください。

ユーザーが利用できるサービスと機能は、所属する組織部門によって決まります。アカウントのユーザー名とメールアドレス（Gmail を使用している場合）は、ユーザーが所属するドメインによって決まります。特定のドメインのユーザーにポリシーを適用する場合は、該当するユーザーをそれぞれの組織部門に配置できますが、必ずしもその必要はありません。1つの組織部門に異なるドメインのユーザーを混在させることができます。また、1つのドメイン内のユーザーを異なる組織部門に配置することもできます。[組織構造の仕組み](#)をご確認ください。

管理コンソールの組織構造で制御できるのは、ユーザーが利用できるサービスと機能のみです。LDAP 構造に合わせて組織部門の構造を作成することもできますが、必ずしもその必要はありません。

管理コンソールの組織構造に LDAP 組織構造を複製する場合は、[Google Cloud Directory Sync](#) ツールを使用できます。

ポリシーに関する重要な留意事項

Chrome デバイスは、ほぼすべての教育機関や企業の環境で利用できます。Chrome Enterprise デバイスを導入する際、管理者は以下のポリシーを使用して Wi-Fi ネットワークへのアクセス、ウェブフィルタリング、プリインストール アプリといったさまざまな項目を制御できます。

- デバイス ポリシー - ログインするユーザーに関係なく、組織の管理対象の Chrome Enterprise デバイスに対して設定やポリシーを適用する場合に使用できます。たとえば、ログインを特定のユーザーに制限したり、ゲストモードをブロックしたり、自動更新を設定したりできます。[詳細](#)
- ユーザー ポリシー - 使用している Chrome デバイスに関係なく、組織のユーザーに対して設定やポリシーを適用する場合に使用できます。たとえば IT 管理者は、特定ユーザー用のアプリのプリインストール、セーフ ブラウジングの適用、シングルサインオン（SSO）の設定、特定のプラグインのブロック、特定の URL のブラックリストへの登録、ブックマークの管理など、多くの設定を組織内のユーザーに適用できます。[詳細](#)
- 管理対象ゲスト セッション ポリシー - ドメイン内で共有されるデバイスの設定を行う場合に使用できます。管理対象ゲスト セッションを使用すると、ログインや認証を行わなくても複数のユーザーが同じ Chrome Enterprise デバイスを共有できます。一定の時間が経過したらユーザーをログアウトさせるなどの設定を適用できます。[詳細](#)
- キオスク ポリシー - キオスクアプリには、デバイスの IME 機能やネットワークの設定を制限するなど、デバイス共通の設定を制御する特別な権限が追加されています。キオスクアプリでは1つの Chrome アプリが全画面表示で実行され、別のアプリケーションに切り替えることができません。一般的なユースケースとして、教育機関向けに標準化されたテスト用アプリケーション、デジタルサイネージ ディスプレイ、および販売店やコールセンター、VDI シンクライアントで単一用途に使うデバイスなどがあります。

企業に適した設定を行うには:

1. モデルとなる Chrome Enterprise デバイスを環境でどのように設定したいのかを書き留めます。
2. 管理コンソールで、テスト用に1つの組織部門を使ってそれらの設定をポリシーとして指定します。
3. 各種設定（起動時に読み込むデフォルトのページ、プリインストールするウェブアプリ、ブラックリストに登録する URL など）を行い、この組織部門の Chrome Enterprise デバイスで検証してから、これらの設定をドメイン全体に複製できます。

Chrome デバイスは自動的に最上位組織に登録されます。[組織部門を追加](#)してユーザー コホートごとにカスタム ポリシーを適用し、[Chrome Enterprise デバイスを別の組織部門に移動](#)する方法をご確認ください。

おすすめの設定

管理コンソールの [デバイス管理] > [Chrome 管理] で、ユーザー、デバイス、ブラウザ、管理対象ゲストセッションのさまざまな設定を行うことができます。

- [フィルタを追加、または検索] 欄にキーワードを入力して Enter キーを押し、設定をフィルタします。
- Chrome OS、ブラウザ（Windows、Mac、Linux）、Android デバイスの設定は、組織部門ごとにローカルに適用することも、上位のドメインから継承することもできます。
- 各設定の左側にあるプルダウンメニューをクリックしてポリシーの継承を変更します。
- 各設定の下にあるアイコンで、ポリシーの適用対象を確認できます。
- 各ポリシーにカーソルを合わせて青い疑問符のアイコンをクリックすると、ポリシーに関するヘルプ記事が表示されます。

ほとんどの組織ではデフォルトの設定が使用されていますが、場合によっては設定がカスタマイズされていることもあります。よくカスタマイズされる項目は以下のとおりです。

ログインユーザーにブラウザウィンドウでのアカウントの切り替えを許可する	ブラウザでの Google アカウントへのログインやログアウトを許可するか禁止するかを指定できます。特定の G Suite ドメインにのみログインを許可することもできます。詳しくは、 ブラウザのログイン設定 をご覧ください。
強制的に再登録	この設定はオンにしておくことをおすすめします。この設定では、ワイプされたデバイスを強制的にドメインに再登録します。Chrome デバイスをドメインに再登録しない場合は、デバイスを デプロビジョニング する必要があります。 強制再登録の詳細 をご覧ください。
画面のロック	[アイドル状態のときは常に画面を自動的にロックする] を選択すると、セキュリティが強化され、ユーザーがパソコンから離れている間に別のユーザーによってそのパソコンが使用される可能性が低くなります。
プリインストールするアプリと拡張機能	オフライン Gmail や Google ドライブなど、ユーザーが使用するウェブアプリを選択できます。 Chrome ウェブストア からユーザーがインストールできるアプリを細かく制御する場合は、アプリをブラックリストやホワイトリストに登録することもできます。
固定アプリ	システムのタスクバーで表示または非表示にするアプリを選択できます。注:この設定を行うと管理者が指定したアプリのみが表示されるようになり、ユーザーが自分で指定したアプリはシステムのタスクバーに表示されなくなります。
起動時に読み込むページ	通常はイントラネットのポータルやホームページを設定します。ただしこの設定を行うと、Chrome デバイスの再起動時に前回のブラウジングセッションで表示していたタブが復元されなくなります。

ログインを許可するユーザーのリスト

ログインを *@[ドメイン名].com のユーザーのみに制限すると、ユーザーは個人の Gmail アカウントや別ドメインのアカウントを使用してログインできなくなります。管理対象（登録済み）の Chrome デバイスにログイン可能なユーザーを制御できます。

各ユーザーがログアウトした後に、ローカルのユーザー情報、設定、状態をすべて消去する

ユーザー セッションが終わるたびに Chrome デバイスからユーザーの状態データをすべてワイプする必要がある場合を除き、この設定は有効にしないでください。有効にすると、ログイン セッションのたびにユーザーのポリシーが再度ダウンロードされます。

自動更新の設定

自動更新の設定はデフォルトのままにしてください。Chrome デバイスの自動更新は 6~8 週間ごとに行われ、新機能、バグ修正、セキュリティの脆弱性の修正が追加されます。また、今後の Chrome OS リリースの動作を組織でテストできるように、組織の 5% のユーザーは Beta チャンネルまたは Dev チャンネルを使用するようにしておくことをおすすめします。推奨事項の一覧については、[Chrome デバイス用に自動更新を導入する](#)方法についてのページをご覧ください。

注: デバイスを登録して再起動する前にバックグラウンドで更新がダウンロードされないようにするには、[エンドユーザー使用許諾契約] 画面で Ctrl+Alt+E キーを押します。この操作をしないと、ポリシーによるブロックが必要な更新であっても、ユーザーがデバイスを再起動したときにダウンロードされて適用される可能性があります。

シングル サインオン

シングル サインオン (SSO) を使用する組織では、組織全体でシングル サインオンの使用を開始する前に、少数のユーザーで Chrome デバイスへのログインが可能かどうかを確認してください。既存のデバイスで SSO を使って G Suite にログインする場合は、[G Suite Password Sync](#) を使用できます。

Chrome の導入とチェンジ マネジメント

新しい技術を導入して変化を受け入れることは簡単ではありません。そのため、Chrome 導入プロジェクトの各フェーズにチェンジ マネジメント手法を組み込むことで、プロジェクト目標を期限内および予算内で達成できるようにします。組織は一定の時間を割いてユーザー グループを評価し、コホートごとにトレーニングのニーズを判断する必要があります。コホートのトレーニングのニーズは、一般的に業務がどう変わるかを理解するためのユースケースに応じて異なります。

Chromebook 導入でのユーザーを管理する体系的な方法を構築することが最も重要になります。体系化されたチェンジ マネジメント計画によって、従業員は次のことを実現できます。

- Chromebook を使用するメリットを理解する
- Chromebook の使用に必要な知識、スキル、能力を身に付ける
- Chromebook を利用してビジネス目標を達成する

チェンジ マネジメントを適用すると、チームはプロジェクトの障害になり得る課題を積極的に特定してそれに対処し、成功のビジョンを設定することに集中できるようになります。Google では、チェンジ マネジメントに次の 4 つの段階があると考えています。

刺激

- 関係者の興味を引く
- 支持を獲得して範囲を決め、サポートモデル、コミュニケーション、トレーニングの計画を作成する

実現

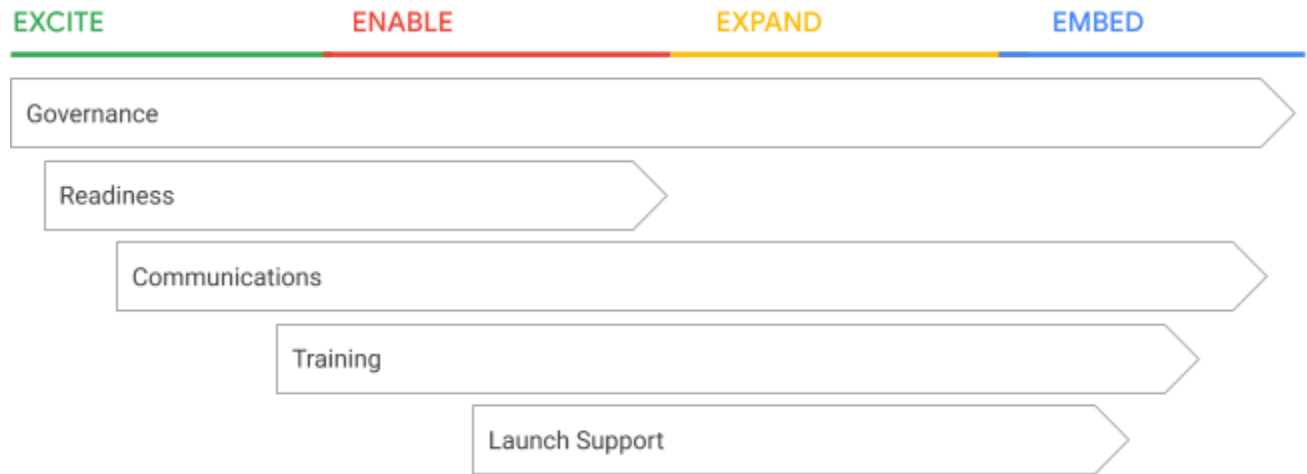
- サービスを導入する
- サービスを導入し、サポートモデル、トレーニング、コミュニケーションの計画を実施する

展開

- 普及を拡大する
- Google チームを作り、変革ワークショップを実施してサポート業務を管理する

定着

- 成果を測定して促進する
- 導入状況を測定して成功事例を広め、社内でユーザーをサポートする
- 導入とチェンジ マネジメントのワークストリーム



Chrome 導入のワークストリーム

技術構成

- ユーザーにできる限り最適な環境を確保する
- 統合ポイントを特定する
- 技術的な課題に早期に対応できるようにする

プロジェクト管理

- プロジェクトを軌道に乗せる
- リソースを整理する
- 関係者の連携を確保する
- 運用開始を管理する

チェンジ マネジメント

- 組織の移行費用を削減する
- ユーザーがサービスの機能を最大限に活用できるようにする
- 適切なトレーニングとサポート資料を提供する
- 肯定的な情報を示す

変革全体でのユーザーのサポート

ガバナンス	<ul style="list-style-type: none">● 変革の顔となるリーダーを決める● 先導する「Chrome 推進者」を選んでトレーニングする● 経営陣などが模範を示す
準備	<ul style="list-style-type: none">● 適切なユーザー コホートおよびユースケース コホートを特定する● コホートごとに変革の影響を評価する● コホートごとにチェンジ マネジメントの成功を定義する
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none">● コホートごとにコミュニケーションのニーズを特定する● すべてのコホートのコミュニケーション計画を作成する● キャンペーンを実施する
トレーニング	<ul style="list-style-type: none">● コホートごとにトレーニングのニーズを特定する● 各コホート用のカリキュラムを作成してトレーニングを実施する● 印刷用のユーザーガイドと社内用の Chrome サイトを作成する
リリース サポート	<ul style="list-style-type: none">● コホートごとにコミュニケーションのニーズを特定する● すべてのコホートのコミュニケーション計画を作成する● キャンペーンを実施する

ガバナンス

社内の誰がこのプロジェクトの成功に責任を持つか

変革の顔となるリーダーを決めます。リーダーシップとエンゲージメントによって変革のビジョンを統一することで、従業員が変革を受け入れるよう促し、その意欲を高めます。目に見える積極的なリーダーシップが、導入を成功させる 1 番の条件です。

優れた支持者の特質

- 変革の顔となる役員（IT 担当者ではない）
- 模範を示すことができる
- 組織内でよく知られていて、評判が高く影響力が大きい
- プロジェクト全体で積極的にサポートを提供できる

役割と責任

- プロジェクトの「エレベーター ピッチ」を承認する
- 組織にプロジェクトについて通知する
- プロジェクトの目標、取り組み、意図を中心にマネジメント チームをまとめる
- リーダーまたは従業員の反発に対処する
- プロジェクトの成功を評価する

成功のヒント

- 積極的かつ献身的な目に見える幹部の支持は成功の条件であると同時に、従業員のエンゲージメントを高めて最大限に賛同を引き出します

運用開始のサポート:Chrome 推進者

Chrome 推進者の役割は、社内トレーニングを改善してユーザーに導入を促すことです。プログラムによって、Chrome に移行するユーザーにピアツーピアのサポートを提供することで、管理しやすい迅速な運用開始が実現します。

Chrome 推進者のネットワークの確立

- Chrome に関心があって導入の推進を望む、テクノロジーに精通した従業員
- 導入時にピアツーピアのサポートを提供する
- 運用開始後にイノベーション委員会のメンバーとなり、確実にサービスを浸透させる
- 物理的な場所ごとに少なくとも 1 人の確保を目指す

役割と責任

- 早期に Chrome デバイスのトレーニングを受けて習得する
- Chrome の使用に伴って組織に起こる変化を把握する
- 同僚の関心を引き出してフィードバックや質問を集める
- 運用開始時にピアツーピアのサポートを提供する（現場の巡回、Q&A セッションなど）
- 社内のよくある質問、役立つ情報、[使い方のヒント](#)の維持を手伝ったり、代替手段として Google+ を利用して有用な情報をユーザーに伝えたりする

準備

対象となるユーザーとユースケース

最初にプロジェクトの範囲を決定する際に特定した、組織での Chrome デバイスの用途をすべて確認します。組織のユースケースがわかれば、コミュニケーションとトレーニング アセットに必要なコンテンツを作成できます。

例:

- コンピューティング
 - Chrome およびウェブ アプリケーションのみ (クラウド ドリブン)
 - デスクトップの仮想化
 - 既存の仮想化インフラストラクチャを利用する
 - 新しい仮想化インフラストラクチャを構築する
- [デジタル サイネージとキオスク](#)
- e ラーニング
- [管理対象ゲスト セッション](#)
- デバイス管理

チェンジ マネジメント用のコホートの特定

組織内で Chrome に移行するユーザーを特定し、該当するユースケースごとにグループを作成します。ユーザー グループとそれぞれのニーズを知ることで、適切なユーザーに必要なコミュニケーションとトレーニングを確実に提供できます。特定したすべてのコホートを Chrome 推進者にサポートしてもらうことをおすすめします。

例:

ユーザー

- 経営幹部
- 管理スタッフ
- IT 管理者
- マネージャー
- 従業員
- エンドユーザー サポート

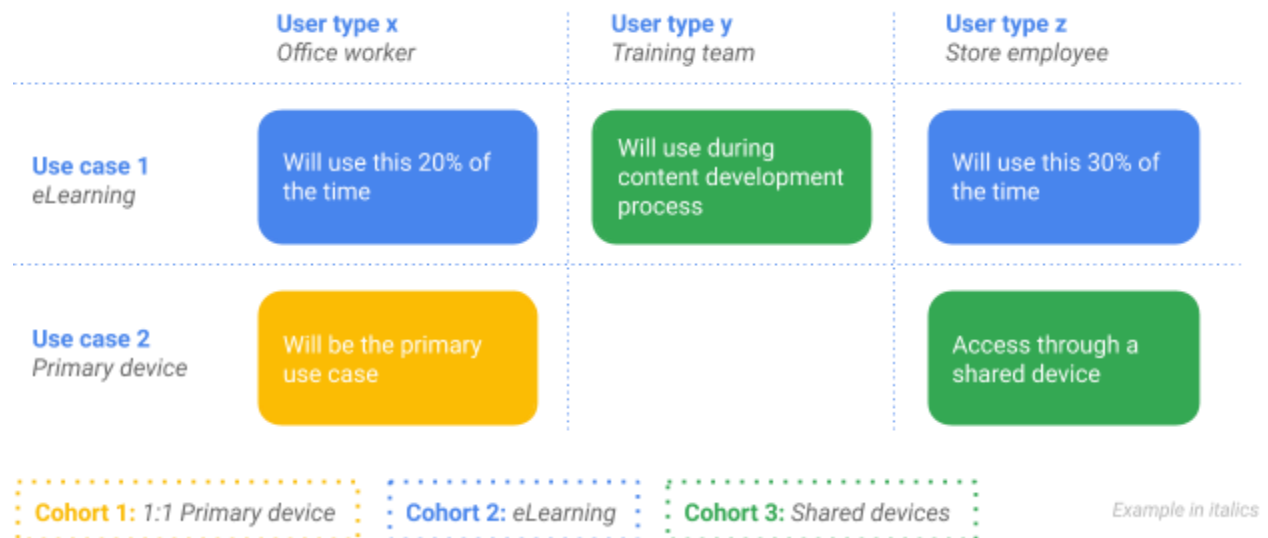
ユースケース

- コンピューティング
- デスクトップの仮想化
- デジタル サイネージ
- キオスク
- e ラーニング
- [管理対象ゲスト セッション](#)
- デバイス管理
- Chromebox for meetings

コホート

- マネージャー、従業員、管理スタッフ - コンピューティング
- 従業員 - デジタル サイネージ
- IT 管理者 - デバイス管理

コホートの作成



変更による影響の評価

Chrome Enterprise デバイスの使用によって変更される業務を検討します。Chrome を使用することで変更されたり新しく作成されたりする業務とワークフローのリストを作ります。Chrome デバイスが業務に及ぼす影響がわかれば、コミュニケーションとトレーニング アセットに必要なコンテンツを作成できます。

変更による影響についてコホートを分析する

業務の大規模な変更によって影響が及ぶコホートを特定します。コホートと変更による影響を知ることで、適切なユーザーに必要なコミュニケーションとトレーニング カリキュラムを確実に提供できます。

例:

- アプリケーションの互換性（およびギャップが生じた場合の対処法）
- 管理ポリシーのマッピング / 代替方法
- クラウドのファイル管理（Google ドライブなど）
- 印刷
- 周辺機器の互換性
- デバイス共有
- サポート / ヘルプデスク

導入の成功を評価する方法

ベンチマークの設定

導入の状況を追跡できるように、Chrome の成果を評価する方法をあらかじめ明確に定義します。追跡指標を使用すると、早期に問題を検出し、必要に応じて軌道修正できます。組織がデバイスを導入したそもそもの理由につながる主要な指標を特定してください。

例:

- トレーニングおよび教育のデータ
- トレーニングの参加者数
- 導入前後のヘルプデスク チケットの数
- ユーザー アンケートのデータ
- 準備状況に関するユーザー アンケートのデータ
- 導入における満足度アンケートのデータ
- 従業員のビジネスデータ
- 従業員 1 人あたりのパフォーマンスにかかる平均費用

コミュニケーション

ユーザーに変革を通知する方法

コミュニケーションの計画

変革において「コミュニケーション過多」などということはありません。通知に役立つ多数のリソースが用意されていますのでご活用ください。

適切なユーザーへの適切なメッセージの送信

- コミュニケーションはコホートごとにカスタマイズして、必要な質問に答える必要があります
- Chrome への移行によって仕事の効率が改善することをユーザーに理解してもらえるように、コミュニケーションは相手に関連する内容である必要があります
- Chrome の受け入れに伴うユーザーのリスクを減らします
- チェンジ マネジメントのコホート分析を利用して、各コホートに関係のあるコミュニケーションの内容を作成します

適切なチャンネルを介した適切なメッセージの送信

組織内のユーザーにアプローチできる適切なコミュニケーション チャンネルを特定し、各コミュニケーションの有効性を判断します。

例: メール、社内コラボレーション、ユーザーガイド、社内ウェブサイト、Google グループ、[Chromebook のハウツー動画](#)

組織に変革を通知する方法

導入の足並みを揃えるためのコミュニケーション キャンペーンの展開

最大限の影響を生み出して目的の反応を得られるように、コミュニケーションとロールアウトを同期させます。

ユーザーに通知して興味を引く

コミュニケーションや複数のコミュニケーション チャンネルに投資することで、Chrome の導入に対する従業員の認識を促すとともに関心を喚起できるようになります。

導入の継続を後押しする重要なメッセージの強化

ユーザーとのやり取りを継続し、更新や[使い方のヒント](#)を提供して導入事例を共有します。

勢いを生み出す方法

エレベーター ピッチの作成

- エレベーター ピッチでは、会社が Chrome に移行する理由を迅速かつ簡潔に説明します
- Chrome を使用するメリットを特定し、組織のビジョンと戦略に結び付けます
- エレベーター ピッチでは、Chrome への移行に関する会社のビジョンを具体化します
- エレベーター ピッチは、説得力があってユーザーに関連するものである必要があります

すべてにエレベーター ピッチを取り入れる

エレベーター ピッチのメッセージをすべてのコミュニケーション資料に取り入れて、メッセージを強化します。

キャンペーンをブランディングする

Chrome プロジェクトに名前を付けると、プロジェクトが周知されてコミュニケーションを取りやすくなります。

企業文化の変革

従業員の関心を高め、変革に向かって弾みをつけます

- 初期の導入を促すコンテスト
- 社内の導入コミュニティのサポート

トレーニング

プロジェクトの成功率が最も高いのは複数のトレーニング形式を使用した場合

- 経験豊富なパートナーによるトレーニングを実施します
- 既存の人材開発チームにスケジュールの設定と調整をサポートしてもらいます
- トレーニング クラスの 50% は午後に実施します
- 必須のトレーニングと任意のトレーニングを定義します

組織のユーザーに必要なトレーニング

トレーニングのニーズを徹底的に評価することで、ユーザーが Chrome に習熟して普及率が上がり、移行期間に大きな混乱が発生するリスクが下がります。

[生産性とコラボレーションのブログ](#)および [Chromebook の使い方サイト](#)で最新のヒントや役立つ情報を確認してください。

トレーニング ニーズの評価

組織的な分析を利用して各コホートのトレーニングのニーズを文書化します。コホートのトレーニングのニーズは、業務がどう変わるかを理解するためのユースケースに応じて異なる可能性があります。トレーニングのニーズを徹底的に評価することで、[ユーザーが Chrome に習熟して普及率が上がり、移行期間に大きな混乱が発生するリスクが下がります。](#)

例:

Internet Explorer の移行 - 全ユーザー

Internet Explorer	→	Chrome
<ul style="list-style-type: none"> UI / ショートカット アドオン 		<ul style="list-style-type: none"> UI / ショートカット テーマ 拡張機能 / Chrome ウェブストア 移行 / Chrome 同期

ファイル管理 - 全ユーザー

ローカルストレージ	→	Cloud Storage
<ul style="list-style-type: none"> UI / ショートカット ファイル管理 		<ul style="list-style-type: none"> UI / ショートカット ファイル管理 / 検索 コラボレーション / 共有 ローカル / 外部ストレージ

Chromebook の基本操作 - 全ユーザー

Windows / Mac	→	Chrome OS
<ul style="list-style-type: none"> UI / ショートカット アカウント ソフトウェア マッピング データ ストレージ ソフトウェアの更新 		<ul style="list-style-type: none"> UI / ショートカット アカウント / デバイス共有 アプリを探す / Chrome ウェブストア クラウド / オフライン データ ストレージ 自動更新 移行 / Chrome 同期

Chrome での VDI の使用 - 従来のアプリが必要なユーザー

実装	→	VDI アプリケーションの使用
<ul style="list-style-type: none"> プロバイダ ビューアアプリ 要件 設定 		<ul style="list-style-type: none"> UI / ショートカット ワークフローの変更 <ul style="list-style-type: none"> ログイン / アプリのアクセス データアクセス

Chromebook と周辺機器 - 周辺機器を使用しているユーザー

Windows / Mac の周辺機器	→	Chrome の周辺機器
<ul style="list-style-type: none"> ● ドライバ ● 設定 ● 印刷 		<ul style="list-style-type: none"> ● 互換性 ● 設定 ● Google クラウド プリント

アプリ開発 - コンテンツ作成者

Windows / Mac 開発	→	Chrome 開発
<ul style="list-style-type: none"> ● OS 開発プラットフォーム ● IE ウェブ開発 ● 配布 		<ul style="list-style-type: none"> ● Chrome 開発 ● Chrome ウェブストア ● サードパーティ プラットフォーム (コンテンツ管理)

Chrome 管理コンソール - IT 管理者

現在の IT 管理	→	新しい IT 管理
<ul style="list-style-type: none"> ● Active Directory ● GPO を使用したポリシー ● SSO ● ソフトウェアの更新 		<ul style="list-style-type: none"> ● 組織部門 ● Chrome 管理コンソールを使用したポリシー ● ネットワーキング ● GCDS による SSO の同期 ● 自動更新ポリシー

Chrome Enterprise のトレーニング方法

トレーニング カリキュラムの作成

トレーニング ニーズの評価を使用して適切なトレーニング チャンネルを特定し、ユーザーがトレーニング リソースをすぐに利用できるようにします。

従来のトレーニングタイプ

セルフペース eラーニング	リモート クラスルーム トレーニング	クラスルーム トレーニング
<ul style="list-style-type: none"> ● 拡張可能、標準化されたコンテンツ ● 一般的にクラスルーム トレーニングよりも低コスト ● 設備の要件が最小 ● いつでもどこからでもアクセス可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 拡張可能、カスタマイズ可能なコンテンツ ● 一般的に低～中コスト ● 設備の要件は中程度 ● 特定の時間にどこからでもアクセス可能 ● パートナーまたはお客様のトレーニング リソースによるサポートが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 低い拡張性、カスタマイズ可能なコンテンツ ● 設備の要件が高い ● パートナーまたはお客様のトレーニング リソースによるサポートが必要 ● 一般的に定着率と効果が高い

最新のトレーニング形式

勉強会

- 拡張可能、標準化されたコンテンツ
- 高い定着率と効果
- 従業員の意欲向上
- 対面でもリモートでも実施可能

強化されたデバイス収集プロセス

- 対面でもリモートでも実施可能
- ユーザーが新しいデバイスを収集するために並ぶことを主目的として少数の動的なトレーニング セッションに参加する、簡潔な収集プロセスを構築する
- デバイスの使用を開始する前に、必ず全員が最小限のトレーニングを受けることになる
- デバイスが設定および登録されて正常に動作することを確認するために、収集後の手順を追加することもできる

一時的なエキスパート バー

- リクエストに応じてエキスパートがサポートを提供する
- 新しい変更をサポートするために一時的に導入することも、既存のサポート機能に完全に統合することもできる

成功のヒント

- ユーザーに Chrome デバイスを受け入れてもらうには、快適に利用できるようにサポートすることが重要です。ユーザーに Chrome デバイスに慣れてもらい、移行時のユーザー エクスペリエンスを向上させるために、運用開始前に Chrome のライトナイト セッション、トレーニング セッション、セルフペース トレーニング資料を提供します。

運用開始のサポート

快適な運用開始を実現し、Chrome 推進者が現場を巡回してピアツーピアのサポートやプロジェクト チームとの最新情報の共有を行って、問題があればエスカレーションするように手配します。

- 導入の前に導入プロセスのテストを 1~2 回行います（必要に応じてチェックリストを絞り込んでください）
- 選択したユーザー グループがログインできることを確認します
- 先行ユーザーを完全展開時の推進者にすることで刺激が生まれ、初期のサポートモデルの人員を増やすことができます

リリース サポートのチェックリスト

- トレーニング体験を提供する
- 1 日目のユーザーのチェックリスト
- Chrome 推進者を引き込む
- フィードバックを求める
- 影響に対応する

トレーニング体験の提供

- 移行時に有意義で面白い体験ができるように計画し、支持者を確保します
- ユーザーが古いハードウェアを併用しているか、交換しているかを検討します
- 移行を簡単にするために、導入開始前の一定期間にユーザーが Chrome ブラウザをテストできるようにします（これにより、ユーザーをクラウドでの業務に完全に移行させることができますが、追加の手順が発生します）
- 導入の成功に必要なとなる次のような付属品を提供します
- モニター、互換性のあるドッキング ステーション、モバイル ディスプレイ、USB アダプター
 - 保護ケース
 - 移動するユーザー用のプライバシー フィルタ
 - すぐに利用できる状態でデバイスを納品する準備サービス

Chrome 推進者を引き込む

導入開始時に Chrome 推進者が積極的に活動できるようにして、全員に以下のことを促します。

- 現場を巡回して従業員をサポートする
- ある種のブランディングで目に見える存在になる
- エンタープライズ ソーシャル プラットフォームで健全なディスカッションを行う
- 問題を追跡してプロジェクト チームにフィードバックを提供する

複数のチャンネルでフィードバックを求める

- Chrome 推進者からのフィードバック
- ユーザー アンケート
- エンタープライズ ソーシャル プラットフォームをモニタリングして、計画的にフィードバックへの回答を提供する
- 質問や問題に対応するフォーラムを決定し、広く公表されるようにする
- フィードバックが確認および対処されていることを示す

「Chrome への移行」のサポート

社内コミュニティによる問題解決の促進

Chrome 推進者プログラム

従業員同士で助け合える社内サポート プログラムを促進します。[Google ガイド](#)を活用して [Chrome 推進者](#) 向けのプログラムを作成します。Chrome 推進者は、自主的にエンドユーザーをサポートし、エンドユーザーの質問を代弁するチームを作る従業員です。このようなプログラム（特に Tier 1 ヘルプデスク サポートの独自バージョン）を作ると、IT サポートチームが対処するサポート事案の数が減少します。

最も多くのチケットを引き受けた Chrome 推進者や、最も多くの質問に答えた Chrome 推進者に、月間優秀社員やギフトカードという形で特典を与えたり、エキスパート レベルの特典をプレミアム Chromebook にしたりすることができます。

長期的な導入の促進

- 変革プロセスの早期に導入の成功を発表します
- 実際のメリットがユーザーにフィードバックされることを確認して、可能な限りメリットを数値化します
- Chrome が「通常」のワークスタイルとして組み込まれていることを確認します。初期段階のトレーニングを受けなかった新しい「参加者」など、プロセスの更新も含まれている必要があります
- 元に戻す方法を用意したうえで、ユーザーに古いデバイスを Chromebook に交換するように促す切り替えプログラムの作成を検討します

成功のヒント

- Chrome 戦略を忘れないようにユーザー コミュニティへの積極的な働きかけを継続し、情報に簡単にアクセスして利用できるようにしておきます

サポートが必要な場合

- [サポートページ](#)をご覧ください。か、ask-chrome-channel@google.com までご連絡ください
- Chrome Enterprise [ヘルプセンター](#)と[コミュニティ](#)をご覧ください
- [Chrome Enterprise の「ハウツー」デモ](#)をご覧ください
- Chrome デバイスの[使い方のヒント](#)
- [Chrome Enterprise リリースノート](#)に[登録](#)し、フォローしてください
- Chrome ブラウザのダウンロードと Chrome Enterprise サービスの概要 - [Chrome ブラウザ エンタープライズ](#)
- [Chrome Enterprise カスタマー フォーラム](#)にご登録ください
- [Chrome 推進者ウェブセミナー](#)をご確認ください

参考資料とサポート

- G Suite、Cloud Identity のお客様（アクセスが許可されている場合のみ） - [サポートにお問い合わせください](#)
- Chrome ブラウザ エンタープライズ サポート - 登録して[スペシャリストにお問い合わせください](#)
- [Chromebook ヘルプセンター](#)と[コミュニティ](#)
- [Google Chrome ブログ](#)と [Chrome リリースのブログ](#)をフォローしてください
- Chrome バージョンのステータスとタイムライン - [Chrome プラットフォームのステータス](#) | [Google アップデートのサーバー ビュア](#)
- お知らせ:[Chrome リリースのブログ](#) | [Chromium ブログ](#)
- デベロッパー:[ウェブ プラットフォームの変更](#)と[今後リリースが予定されている機能](#)をご確認ください

問題解決のヒント

- Chrome ブラウザで <chrome://settings/help> にアクセスしてください
- Chrome リリースの仕組み - [Chrome のリリース サイクル](#)
- [Chrome デバイスのログを収集するには](#)
- [Chromebook の問題を解決する（Chromebook の一般ユーザー向け）](#)
- [報告されている問題](#)（Chrome Enterprise）
- [Log Analyzer](#)（G Suite ツールボックス） - `/var/log/messages` と `/var/log/chrome/` にエラーがないか解析してください
- [Chromebook でのテストの管理](#)